



明る い年、 飛躍を願 い

走
撞
師
点
'10

マルダイにジャンボ門松

住宅資材販売のマルダイ(深沢裕一郎社長) 富士市大淵IIで、年末年始の風物詩「ジャンボ門松」作りが佳境を迎えている。

ジャンボ門松は、野縁(のぶち)と呼ばれるアカマン角材(4寸×3寸)の住宅建築資材420本を束ねた高さ4尺、幅5・6尺の「キャンバス」で作られている。

本来の門松と同様に、その年の神様を招くための目印であり、神様が降りてきた際に宿る場所になると言われているとか。

キャンバスに描かれているのは、躍動感あふれ、生命力に満ちた干支(えと)の卯(うさぎ)。そのほか松竹梅といった縁起物や朝日、富士山が背景を飾っている。同社によると、描かれたウサギのような飛躍的で明るい年になるようにとの願いが込められているという。

同社のジャンボ門松作りは20年以上続いている。ここ12年間は清水看板(中野)の清水信夫さんが妻・静枝さんとともに筆を走らせている。11月中旬から制作に取り掛かり、25日までに制作予定の16枚すべてが完成する予定だ。

同社によると、今年注文があったのは県内外の建設会社や工務店など15社。東は神奈川県大和市、西は島田市まで届けられる。

富士地区では同社が旧正月に当たる1月15日まで正面入口に飾るほか、遠藤勉建築II富士宮市宮原II、四條幸建築II同II、やまいち建設II同市杉田II、渡辺建設II同市舞々木町IIで見ることができる。

飾り終えた門松は各工務店の抱える施主の住宅建築に使用。縁起材として天井や軒裏など住居空間から見えない場所に配される。

